



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 63

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 63. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1957, 63: 49-53

ISSUE DATE:

1957-12-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186804>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 63

1957.11月(12月5日)

録 事

入館者数は前月に引きつづき、今月も昨年度より減ったが、売上金において10万円以上の減収を見たことは本会としてもちよつと痛手である。これは世間の景氣も落ち目になった事實を物語るものであろう。その上に明光バス会社よりの定期支拂がまたまた遅れ出してきたので、再三督促しているが落ちがかない。これで最も迷惑を蒙るものは番所山植物園である。所則委員の斡旋を期待する。

本年度より水族館建物の借用については、文部省の他に大蔵省の認可を要することとなったので、11月2日近畿財務局和歌山財務部の山下管財第一課長が、京大本部の石本部長と共に来所され調査された。

3日の文化の日には総計2247名の入場者を見た。当日の窓口売上金19,600円は毎年の恒例により文化事業寄与の目的で寄附されることになっており、本年はこれを町立白浜中学校の図書館充実にあてるべく寄贈された。これに基づき中学校は日本少年少女古典文学全集、新世界史文庫、新日本史文庫、日本少年国民文庫、世界ノーベル賞文庫、理科の学校、保育社の少年寫真文庫の7全集をそなえつけ、生徒の学習・教養に大いに役立たせることとなった。

臨海浦に建設する予定の取真宿舎は、敷地の整地や実験所構内に通ずる通路の掘鑿も大体終り、今は工事着手を待つばかりである。水族館の設計案も再三改訂を加えられ、ほぼあらましの構想はまとまった域に達した模様である。

奨学研究生高松君は上旬2回畹田川々口の敷地奥で昼夜観測を行ない、中旬から下旬にかけては、同河口から田辺湾内にかけて調査船「*Janthina*」に乗って20敷地奥

で稚鮎の放流移動の様相をつきとめるべく昼夜観測を実施した。すでに湾内の多くの地点で約1.5cm前後の稚鮎が採れている。

原田研究員は28日南部町塚のトロール船用運丸に同乗し、日ノ御崎南方20km附近の海底100mで行われたトロール採集物を多数得ておえた。

委員塚本健一氏の京大理論物理学研究所への配置転換に伴ない、下記の如く委員の交代が行われた。会長より他委員監事各位の御承認を得たく御願いたします。

11月1日 委員の嘱託を解く 委員 塚本健一

11月1日 本会委員を嘱託する 鹿野英夫

鹿野新委員は理学部事務官会計掛長です。なお塚本氏よりは在任中の御援助を謝する旨御挨拶がありましたので紙面を借りてお伝えいたします。

業 務 概 況

◎ 11月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	6952	61449	14558	127651	21510	189100
小 人	342	5654	195	3837	537	9491
団 体	13007	102051	—	—	13007	102051
合 計	20301	169154	14753	131488	35054	300642
無料入場者	白浜漁業会		66		66	1153

団 体：一般 143組、学生 20組 計 163組

◎ 11月の事業収入 (今年度累計)

観覧券売上金	643,840	5,480,219
予金・積立金利子	21,000	366,000
雑 収 入	30	1,875
魚 美 掛 下	—	19,300
計	664,870	5,867,394

⑤ 11月の支払

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	67,260	595,287	
会議費	680	71,078	
備品費	29,950	65250	アクアラング用水添服他
消耗費	14,735	93,129	
事業費	71,207	435,952	
維持費	45,690	172,042	海水取入口工事他
其他諸経費	25,854	189,101	文化の日窓口売上金寄附他
積立金	131,736	1,118,164	
合 計	388,112	2,740,703	

美術館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	—	60,000	
奨学金	8000	57,000	
備品費	89,350	261,199	標本戸棚他
消耗費	—	600	
刊行費	—	227,795	
役務費	—	130,000	
合 計	97,350	736,594	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	18,500	160,236	
備品費	—	267,620	
消耗費	—	6,530	
役務費	—	18,660	
合 計	18,500	453,046	

臨時費

摘 要	金 額	累 計	備 考
整地植林人夫賃		6804	625,254
合 計		6804	625,254

支出合計 (今年度累計)

水族館経費	388,112	2,740,703
実験所経費	97,350	736,594
博物館経費	18,500	453,046
臨時費	6,804	625,254
計	510,766	4,555,597

◎ 11月末現在高

前月からの繰越	3,533,805
今月の収入合計	664,870
今月の支出合計	510,766
現 在 高	3,687,909

◎ 前年度との比較

	1956	1957	増 減
入 場 者 数	41,562	35,054	— 6,508
売 上 金	756,026	643,840	— 112,186
支 出 金	462,610	510,766	+ 48,156

水族館記事

- ◎ エビ綱は11日解禁になり、14日からはツボ網漁が始まって魚類・エビ類は豊富に入槽した。
- ◎ 3日シラコダイ5匹とイトヒキアジ1匹が入槽、シラコダイは5日4匹、6日1匹と死亡し、イトヒキアジは10日、16日と2匹死亡した。
- ◎ ウスバハギは5、14、20日と3匹死亡した。
- ◎ 9日カゴカキダイ1匹とモンダコ1匹入槽。
- ◎ 10日ツルクエ1匹死亡。
- ◎ 14日ネコザメ1匹入槽
- ◎ 24日アカウミガメの仔2匹死亡。

- ① 25日マダラトビエイ1匹入槽、30日死亡した。
- ② このところ毎日のように入槽するイセエビ中、珍しいシマイゼエビが1匹まじっていた。
- ③ 切羽売場の内部を少し改造して、釣銭器や書类を置く場所をもうけたので、窓口事務が便利になった。

資 料

④ 11月の気象 (9時観測)

南水槽室 (水温・比重はNo.25 水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (20)	8	5	7
室 温 (°C)	$\frac{18.8 \sim 16.4}{17.9}$	$\frac{22.8 \sim 16.1}{17.4}$	$\frac{18.2 \sim 13.5}{16.3}$
水 温 (°C)	$\frac{21.14 \sim 19.89}{20.82}$	$\frac{22.00 \sim 18.86}{19.53}$	$\frac{20.58 \sim 18.09}{19.51}$
比 重 (0.15)	$\frac{25.77 \sim 24.89}{25.27}$	$\frac{25.65 \sim 23.91}{25.17}$	$\frac{25.57 \sim 25.09}{25.38}$

海水取入口

水 温 (°C)	$\frac{22.14 \sim 20.22}{21.11}$	$\frac{22.35 \sim 18.98}{20.01}$	$\frac{20.78 \sim 18.54}{19.97}$
比 重 (0.15)	$\frac{25.71 \sim 24.90}{25.30}$	$\frac{25.51 \sim 24.97}{25.27}$	$\frac{25.66 \sim 25.24}{25.43}$

来 訪 録

11月14日 下関市立下関水族館中村靖夫氏他2名来館

昭和32年12月5日 (No. 63)

編集兼
発行者
発行所

内 海 富 士 夫

瀬戸内海実験所藤井公
和可山県白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel. 白浜温泉515)